

徳島県総合計画審議会「『未知への挑戦』推進部会」 会議録

I 日時 令和元年8月30日（金）午後1時30分～午後2時30分

II 場所 徳島県庁4階 403会議室

III 出席者

【委員】12名中11名出席

金貞均部会長，青木正繁副部会長，上野浩嗣委員，植本修子委員，
近藤明子委員，谷尚美委員，近森由記子委員，平岡深愛委員，藤岡梨沙委員，
フェネリーマーク委員，
高畑拓弥委員（南部総合県民局（美波庁舎）からTV会議により出席）

IV 議題

1 部会の運営について

2 その他

《配付資料》

資料1 総合計画審議会及び「『未知への挑戦』推進部会」について

資料2 徳島県総合計画審議会「『未知への挑戦』推進部会」委員名簿

資料3 徳島県総合計画審議会設置条例

資料4 徳島県総合計画審議会部会設置規程

資料5 新たな総合計画の概要について

資料6 令和元年度 対話集会「新未来セッションNEO」の開催計画

V 会議録

1 各委員自己紹介

2 事務局から、事前に総合計画審議会 山中会長より金委員が部会長として
指名されている旨を連絡

3 志田政策創造部長挨拶

4 金委員、部会長就任挨拶

5 金部会長より、青木委員が副部会長に指名された。

《意見交換》

事務局から、部会の運営について、資料1～6により説明の後、意見交換が行われた。

（金部会長）

資料に基づいてご説明いただきましたが、今の説明に何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

なお、先程説明がありました対話集会「新未来セッションNEO」については、当部会としても積極的に協力していきたいと思っております。そこで昨年度、若者クリエイティブ部会として対話集会の開催・運営にご尽力頂くとともに、対話集会の継続的な実施について県への提言をまとめられました青木副部会長と近藤明子委員を中心として、その役割をお願いしたいと思うのですがいかがでしょうか。

（青木副部会長）

はい。昨年も対話集会に携わらせて頂きまして、今年はNEOということで先程事務局からご説明がありましてとおり、県西部・北部・南部の3ヶ所で開催されることになっております。高校生や大学生の若い世代の意見を聞く場というのが、昨年度の若者クリエイティブ部会でも、そういった場が必要だということで開催を継続した方が良いというように提言をまとめさせて頂いて、今回の新部会でもNEOという形で開催の

運びとなっております。しっかりと現役の高校生や大学生の意見を聞いて、1つでも2つでも柔軟な発想や意見を施策に展開できるように努めて参りたいと思っておりますので、委員の皆さんのご協力もどうぞよろしくお願い致します。

(金部会長)

はい。それでは青木副部会長、近藤明子委員、どうかよろしくお願い致します。

なお、対話集会は資料6のとおり、3回開催されますので、他の委員の皆様におかれましてもご都合が合うようでしたら、是非ご参加を検討頂けたらと思います。

本日予定しております議題はこれで終了となりますが、何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

はい、藤岡委員。

(藤岡委員)

新未来セッションNEOについてなんですけれども、私、今年度、西の方の高校のSDGsの遠隔授業の担当をさせて頂くことになっておりまして、是非、新未来セッションNEOにも参加させて頂いて、高校生の生の意見を拾って、それを授業に反映させていきたいと思っておりますので、もしご協力できることがありましたら、是非よろしくお願い致します。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

新未来セッションNEOの開催計画ということで、資料6でお示しをしておりますけれども、昨年新しい総合計画の策定の過程で、試行的に対話集會を開催致しまして、先程、青木副部会長からお話があったように、委員の方々からも、是非、若者との対話集會といった場を継続して頂きたいというご提言と、高校生の方々からも対話集會のような場が年間を通してあれば良いといったご意見を頂いて、今回後押しを受けて、恒常的な意見交換の場として、スタートさせて頂きたいと考えております。

高校を会場として、参加予定校は各校3校程度としております。昨年試行的に実施した際は各校3校から5校程度で、今年度は昨年実施していない高校ということで選考したところですが、人数的にもですね、昨年の取り組みなども踏まえながら、できるだけ参加されている高校生の方々のご意見を頂きたいということで、人数をある程度絞り込んで、相互に対話する形で実施していきたいと考えておりまして、高校生の方については大体20名程度、また大学生の方、加えて先程も藤岡委員からお話頂いたとおり、この部会からもご都合が付けばご参画頂いて、高校生、大学生の方とのやりとりを通じて、若者の生の意見を、しっかり私達で聞いていきたいと考えておりますので、ご協力頂ければと考えております。

(金部会長)

高校生は20名程度ということですが、この対話集會は意見を聞くだけではなく、県の色々な良い所や取り組みについて広報するといった役割もあるのではないかと思います。そういった観点からみると、20名という参加者数は少ないのではないかと思います、いかがでしょうか。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

昨年はもう少し参加人数が多かったんですが、実際に手を挙げて意見を言う方と、スマホなどで意見を投稿できるような仕組みを手配致しまして、投稿された意見をリアルタイムで会場のスクリーンに映して、投稿も見ながら意見を広げていくような形で実施したところですが、できるだけ来て頂いてる高校生の方から直接意見を頂ければということで、今年は少し人数を絞る形にさせて頂いております。

今、部会長さんから頂いた広報の話につきましても、今年度は対話集會の意見交

換テーマとして、地方創生に関するものを設定させて頂いています。徳島県が今取り組んでいる地方創生の取り組み、サテライトオフィスや消費者行政の展開などを紹介して、徳島県の現在の取り組みを踏まえながら、高校生・大学生の若者のご意見を頂きたいと考えております。人数的には限られておりますが、県の取り組みなどを広報させて頂きながら、意見をしっかりと聞ける場として開催していきたいと考えております。

こういった取組については、ご了解を頂いて、動画などを撮影しまして、最近、ご承知のとおりスマホなどで動画が主流になってきておりますので、動画などで広報といった形で、参加されていない方も見ることができるといったことなども工夫できないかと、検討していきたいと考えております。

(金部会長)

他にいかがでしょうか。はい。フェネリー委員、お願いします。

(フェネリー委員)

対話集会の場で、高校生から意見や質問など色々出てくると思うのですが、可能であれば、このテーマについて前もって、例えば生徒会などを通して生徒皆さんの意見を聞くであるとか、又は終わった後に持ち帰って、何かの組織を通してさらに意見を頂くということの方が、より多くの人の意見や考えた後の意見が出るのではないかと思います。瞬間的に思ったことではなくて、深く考えた上での意見が出るのではないかなと思います。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

昨年試行的に開催した対話集会では、スマートフォンなどでの投稿で質問や意見を頂くシステムを、対話集会の最中だけではなく、終了後も一定時間投稿が可能な状態にして、会議の内容を振り返って頂いて、改めて「こんな意見言いたい」といったご意見もお伺いできるように、取り組んだところです。フェネリー委員がおっしゃるとおり、議論を踏まえて、もう1回考えてみてといったところもあるかと思いますので、高校と話をしてみて、できる限り取り組んでいきたいと思っております。

(金部会長)

せっかくの機会なので、できるだけ多くの学生さんに県の取り組みを紹介するような機会があったらいいのかなと思います。一方で大勢の中では意見は少し出しにくいので、例えば二部構成で、前半では色んな県の取組を説明して、それを踏まえる形で後半で話し合い、意見を出し合う場を設けるといった方法をとると、より効果的になると思います。

はい。高畑委員、お願いします。

(高畑委員)

昨年度の対話集会開催結果の資料を見させて頂いて、非常に色々な意見が出ている中で、終わった後に県政への提言というところに全てではないでしょうが盛り込んでいく中で、おそらく高校生は「その後どうなったんだろう」というのをすごく気にしているというか、僕にとってはこの部会の中で共有されて素晴らしい意見交換があったんだと分かるんですが、本人達は素晴らしいと思ってくれたのかなという状態で終わっている可能性もあるので、徳島の素晴らしいところとして高校生からもこうやって意見を吸い上げた後も、本当に県政に響かせて、君達の声が本当に政治を変えているんだよといったフィードバックまで繋がっていると、今年度の会をやる時にも、去年の実例はまさにこれがヒットしてこんな総合計画の見直しに繋がっているんだよといったようなところで、本気度がどんどん高まっていくのかなと思っています。時間

が限られたところかもしれませんが、可能な範囲で子供達ありきというところも含めて、是非ご検討頂ければと思います。

(金部会長)

はい。ありがとうございます。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

ただ今頂いたご意見については、まさにおっしゃるとおりでございます。昨年新しい総合計画を作る段階でも色々ご意見を頂いて、それを当時の若者クリエイティブ部の青木部会長さんを中心にしっかり取り組んで頂いて、計画に反映していったという作業を行っております。どういった形で分かりやすくフィードバックしていくかというのは本当に大きな課題となっています。今年度、改めてこういった対話集会を実施する中で、地方創生という、ある意味身近なテーマでもありますので、色々ご意見頂くとありますが、今後もしっかり考えていきたいと思っております。

(金部会長)

はい。谷委員、お願いします。

(谷委員)

私どもの阿波池田商工会議所では、2、3年前に池田高校、その頃は合併前でしたので、三好市の3校合同で女子高生に意見を聴く会ということで、100名参加して頂いて開催致しました。いきなり高校生の方に「意見を言ってください」と言っても難しいと思うので、5、6人のテーブルを作って、ファシリテーターの方に来て頂いたりして、意見を言い出しやすいように工夫をしました。その中の1つが地元で作った美味しいお菓子などを机の上に出して、女子会の雰囲気できつくばらんに気軽に意見を言ってもらおうといった形で実施しましたら、色んな意見がどんどん出てきました。意見を出して頂いただけではいけないということで、文章にまとめて行政に持って行ったんですが、回答頂けてないままということになっています。その後、やはりこのままではいけない、それをどういう風に具現化していくかということで、我々も考えていかなければいけないので、回答も求めたり、次のステップということで教育委員会・学校の方にもお話しを持って行ったんですが、進学校は特に、忙しいのでそういうことばかりにあまり時間を割けないといった感じで縮小化しているというか、ちょっと止まっているのが現状でもあります。色々担当によって難しいところもあるかとは思いますが、県の皆様にもちょっとその辺のご意見などを聞いて頂けるとありがたいかなと思います。

(金部会長)

まさにワークショップ形式の話し合い方で、テーブル毎にまとめられた意見を出したわけですね。

(谷委員)

意見を並べて、みんなに見て頂いて、その後、高校生にも代表して何人かに意見を頂いたんですけど、すごい活発な意見が最後は出まして。「私は池田に絶対帰ってきて、ここで起業します。」と仰ってくださった方もいて、頼もしかったです。その意見をまとめて持って行って、意見具申しているんですけども、そこで止まっているというのが現実ではあります。

(金部会長)

せっかく良い意見を色々出しても、それがどのように反映されているか、実感が

湧かないと参加する意欲が湧かないですね。

(谷委員)

やはり子ども達も、自分が言ったことがなにか活かされているというのがないと、もう言っても同じとなると、とても悲しいと感じると思います。

(金部会長)

確かに、そうですね。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

高校生の方、今おそらくスマホをかなり持たれていると思います。どういった形であれば受け止められるのか、単なる紙ではなくて、スマホなどでいつでも見たら分かるようなことも考えられるのかなと思いますので、フィードバックの仕方、特に今の高校生、若い方々に合うようなところも色々と考えていきたいと思っています。

(金部会長)

他にいかがでしょうか。はい。近藤委員。

(近藤明子委員)

昨年行われた対話集会におきましても、本当に高校生は、かなり地域の事を考えているんですね。それをなかなか発信する場がなかったというのがおそらく現状でして、県が若者クリエイティブ部会の中で、こういった形でやってはどうかということで開催していただきました。もちろん教育委員会の方々、先生方にもご協力頂いたんですけども、こういう場があって高校生がしっかりと意見を出せて、でもちょっと恥ずかしいから大人数の中で発言するのはうーんという子ももちろんいます。今年は少しだけ人数を絞った形で開催をされるということで、おそらく高校生はたくさん意見を出してくださると思いますので、その中で、高校生にこういう部分も考えて欲しいなといったなにかちょっとしたアドバイスを、我々部会の中から参加するメンバーからも発信しながら、もう少し具体的な意見を吸い上げていきたいと思っております。

(青木副部会長)

皆さんから意見を言って頂いたとおりで、最後フィードバックの問題で、以前の若者クリエイティブ部会の時にも委員の中で、この新未来セッション以外にも大きな施策をどう持っていくかという話し合いをした時に、多くの時間と多くの知識、多くの委員の皆様からご協力を頂いて、最後どうなったんだというのが、やはり大きな課題でございまして。この審議会委員というのは決して政治家ではありませんので、最後どこへどう持っていくかといった話、もちろん提言までは持っていける。だけど、それ以降どうなったかというのが、やはり一県民としては、委員の皆様方もそうだし、参加される高校生や大学生の方も同じ意見を持っているのが事実だと考えております。

では、フィードバックの仕方をどうするかというと、正直言いますと、私も答えは出ていません。だけど、先程委員の皆さんがおっしゃったとおりですね、何もしてないというのでは決してなくてですね、県の皆さんと一緒にフィードバックの仕方、紙媒体が良いのか、SNSの媒体が良いのかという色んな試行錯誤をしているというのが今の現状でなかろうかと考えております。

その中でも先程、近藤委員がおっしゃったとおり、やはりこの対話集会、大人数から少し人数を絞ったとしても、私ども教師ではありませんので、実際にファシリテーターをした正直な感想で言いますと、意見を出す高校生もいれば、出さない高校生もいます。雰囲気作りが非常に難しく、今日皆さんと初めて顔を合わせたところで、すぐコミュニケーションが取れるかというとなかなか難しいです。何年もして初めてコ

コミュニケーションというのは生まれるものであります。いきなり「意見を言って、手を挙げて発言してください」と言うのは難しいのが現状だと考えております。それで試行錯誤といいますか、今回やり方を少し考えて頂いて、スケッチブックに意見を書いて、それを挙げて頂くといった形に少しやり方を変えています。以前は手挙げ方式とか、指名したりしておりました。そうすると先程皆さんがおっしゃって頂いたとおりの流れになってくると思います。我々としても高校生の生の意見をいかに引き出して、いかに発言に持っていくかといったところに苦労しているのは正直なところではあります。逆に言うと、委員の皆さんからこうした方がいいよというのを、今年3回のうち1回でも参加して頂いて、2回目の会議等で課題を抽出して、こうした方がいいよという意見を言って頂いて、よりよくイノベーションしていくのが、良い方向へ繋がっていくのではないかと考えております。

(金部会長)

植本委員、お願いします。

(植本委員)

以前、高校生に参加してもらって、しゃべり場というものをやったことがありまして、ものすごく意見を言ってました。だから、黙ってしまうのはなぜなのかなと、空気なのかもしれないですし、あと参加している人のタイプによるかとも思います。やり方も、哲学カフェとか最近結構あると思うのですが、発表する場がないらしく、フラストレーションを全部言えたなんていう風に、全部出たなんて言うてくれてたぐらい、言ってみたくはあるらしいです。また、少人数であれば盛り上げるツールも良いのではないかと感じました。ボールを持って、次喋る人に投げなきゃいけない、それでボールを持ったら何か喋るみたいなものも割と盛り上がるみたいです。「ボール来る来る」みたいなものもそうですし、来たらしいと思ってる子の所に行くとか行かないとかもありますけど、そういった感じの盛り上げるツールであるとか。

それから、高校生達はSNSをあまりやっていなくて、やっていてツイッターとか。これは1回企業さん向けでやったことがあるのですが、たくさん意見が出ましたと。でもそのままというのがとても世の中に多くて。でも、それはゴールをどこに設定するかといったところがなかったりするだけなんです。もしかしたら、たくさん意見を言うてもらうことがゴールでもいいのかもしれないと、でもその意見をちゃんと然るべき所が見てますというような動きさえあれば、言った側もある意味満足というか。なぜツイッターかという、言ってくれた意見をスタッフ側が打って行って、どんどんツイートしていったと。それに対して、徳島県なり、大学の人達なりが返事してあげたらいいんじゃないかなという風に、そうすれば後で、自分で自分の言ったことを探すだろうし、返事してくれてるって思うだろうし、なんかそういうことでもいいのかもしれない。形にするとと言っても、それが何かの提言書のような書面になったとしても、みんながそんなに見てるかと言うと見てないだろうと、そういった風に思いました。

(金部会長)

はい。返事を書く、ということですか。色んな方法があるかと思いますが。やってみないと効果が分からないということもありますね。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

対話集会の運営の仕方も、去年の状況を踏まえながら、試行錯誤しながら、先程ご意見頂いた、意見が言いやすい雰囲気であるとか、植本委員がおっしゃったゲーム感覚みたいな柔らかい雰囲気の中で意見が出せるような、そういったところは非常に大切だと考えています。どうしても県が運営するという形になると、堅い雰囲気が出るということがありまして、そういった中でも委員皆さんの中からもできればご参加頂い

てと考えております。

また、今年度9月から10月にかけて3回実施致しますが、例えば1回目開催してここをこう変えたらいいんじゃないかとか、次に取り入れるような部分について、全てできるかどうかというのはありますけれども、改善しながら実施していきたいと考えています。対話集会自体を実施することが目的ではありませんので、意見をしっかり出して頂いて、それを受け止める場として考えておりますので、委員の皆様からも改善点については積極的にご指摘頂ければと思います。

(金部会長)

ありがとうございます。はい。平岡委員、お願いします。

(平岡委員)

事務局に2点質問させて頂きたいんですが、高校生の意見を取り入れいくという方針はわかったんですが、大学生への呼びかけの方法であるとか、そういった部分のアプローチの記載が少ないと思いました。植本委員がお話くださったように、県の方と高校生という、大人と子どものような、ある意味対立関係が生まれてしまう所に大学生という存在があることで、中間の働きをしてくれると思うんです。空気を和ませるであるとか、高校生にとっても身近なロールモデルになるという役割もあると考えていて、そういう意味で大学生にも、高校生と同じくらい多く働きかけを行っていくことで対話集会自体が活性化されるのではないかと考えているんですが、その点でこの対話集会について、大学生をどう捉えてどう働きかけをしていく予定なのかをお伺いしたいのが1点です。

もう1点は、社会人1年目から5年目ぐらいのまだフレッシュな社会人の方で、県外から来られた方にしろ、県内でずっと暮らしている方にしろ、県内で社会人になった方の意見というものも若い人の意見として大切であると共に、高校生から見て徳島で就職した人ってこんな人なんだなというロールモデルを見ることにもなるのではないかと考えています。そういった社会人の若手の方については、今回のセッションではあまり取り入れていかない方針なのかどうなのかという、この2点についてお伺いします。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

大学生の方については、県内の各大学の方で、特にボランティア活動などといった形で、こういった行政の活動にご参加頂けるような仕組みなども設けているところもございます。私どもが大学の窓口と連携をして、強制ではなく、興味があるとか、参加してみたいと思われている方に声を掛けて頂いて、各会場数名程度になるかもしれませんが、大学生の方にも参画して頂く予定としております。

それから、先程お話し頂いた若い社会人の方ですが、地域の方々という形でもあるんですが、徳島県で色々な地域活性化に携わっている方であるとか、あるいは県外から徳島県に何らかの魅力を感じられて移住されてきた方や、サテライトで二地域居住をされて徳島県で仕事されている方などで若い方にも、この対話集会に参加頂いて、決して高校生だけではなく、大学生や地域で色々取り組んでおられる方達と、意見交換する中で刺激を与え合うといったこともあろうかと思っておりますので、そういった場として広く意見を頂ければと考えております。

昨年に関してはですね、こういった対話集会の他に、大学生と高校生を対象として、別途アンケートを実施致しまして、色々意見を頂いております。対話集会については、アンケートと別に、直接生の声を聞く場として設定をしておりました。今年度の次期総合戦略の策定につきましても、様々な手法を取り入れながら広く意見を伺うという形で進めていくことになろうかと思っておりますので、今頂いたご意見についてはしっかり受け止めさせて頂いて、できる部分はやっていきたいと考えております。

(平岡委員)

ありがとうございます。

(金部会長)

他にいかがでしょうか。はい。近森委員、お願いします。

(近森委員)

平岡委員のお話に対し少し関連するかと思うんですが、若い方、高校生をメインにということですが、ダイバーシティということを考えますと、既に取り入れられているかもしれませんが、例えば障がいをお持ちの高校生の方ですとか、海外から来られている方とか、一様ではなく多様な方がいるんだというのが会場の中からも分かるような対話集会になってもいいのではないかなと思いました。

それと、参加できない委員もいらっしゃると思うのですが、参加できなかった委員に対するフィードバックは大体スケジュール的にどれくらいになるのかと思ひまして。例えば第1回の対話集会が終わった後に簡単にこういう意見が出ましたという形になるのか、まとめて第2回の部会会議までに頂けるのか、現在の予定で構いませんので、教えて頂けたらと思ひます。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

高校生の方でも、ハンディキャップがある方や海外から帰国された方などがいらっしゃるということですが、生徒さんの人選は高校にお任せをしていますが、その中でも、昨年度は例えば、普通科だけにならないように技術系もあってといったように、学科などできるだけバラエティに富むようにといった形で実施させて頂きました。近森委員からお話しがあった件については、ある意味優等生的な方ばかりではなく、色々な考え方を持っている高校生の方がいらっしゃると思ひますので、そういった部分にも配慮頂いて人選して頂ければという点は、しっかり高校にお伝えしたいと思ひます。

それから、結果のフィードバックについては、会場のお許しを頂いて動画で記録する予定としております。動画で実際の様子を見て頂く形であるとか、頂いた意見をまとめたものなども、できるだけそれぞれの対話集会の終了後、できるだけ速やかに取りまとめて、予定についてははっきりとお答えできませんが、できるだけ早く、速報という形でもですね、委員の皆様にはフィードバックさせて頂くといった形で努力させて頂きたいと思ひます。

(金部会長)

ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

はい、藤岡委員。

(藤岡委員)

確認させて頂きたいんですが、参加の高校生が20名ということなんですが、その20名は高校生自身から、「私が参加したい、僕が参加したい」というように募っているのか、それとも先生方からその人たちにお願ひするという方法で各学校の代表を決めているのかどちらなんでしょうか。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

高校生の人選は、私どもから高校へお願ひをして、高校の主体的な形で人選して頂いておひまして、希望のある方は優先して参加頂くであるとか、そういった部分も含めて各学校にお願ひしておひます。人数が20名のところを、例えば30名というわ

けにはいきませんので、そういったところで希望者全員が参加できるかどうかということはありませんけれども。そのような形で参加頂くことについて、お願いをしています。

(藤岡委員)

やはり20名と人数を限定すると、参加してくださる高校生の方達は、きっとテーマについて今まで考えたことがあったりだとか、興味関心があって意見が言えそうという前提が、少しあるのかなと思うんですね。もちろん興味があって参加するグループも必要かと思うんですが、高校生の人達はもう少し将来を考えていくと、これから社会を担っていくすごい大切な存在になる一人一人だと思うんですね。今、興味があってそれに対して考えられる人達だけではなくて、今はあんまりアンテナが張れてないというか、意見が言えるというまでに至ってないけれども、考える準備をしていくのはすごく大切な経験になると思うんですね。今回は20名と限定されているので難しいかもしれませんが、まだ興味をしっかりとっていない高校生達に対しても、考える機会を与えるだけでも全然違うのではないかなと思ひまして。そういう機会を与えることによって、これからアンテナが立つと思うんですよね。SDGsのことについても、「SDGsって何」って、全く聞いた事ない人に予備知識が入っていくと、今度からそういったものを見た時に、後ろの立て看板はSDGsのやつだとか、これはSDGsのことについて言っているのだなとといったように、もっと自分で考えて意見を言える存在になっていけると思うので、将来的なことも考えて広い募集の仕方や学校全体でといった方法なども模索して頂けたらと思います。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

人選については、高校で幅広く募って頂くとともに、対話集会の運営方法は固定されたものではありませんので、人数は多い方が良くといった時に、こういったやり方ができるであるとか、ワークショップを少人数で実施するといった形であったり、今後、運営の方法として考えながらやっていきたいと思ひます。ありがとうございます。

(金部会長)

対話集会のやり方については、これから色々な展開を踏まえながら、改善していくことになっていきますので、今年はこの方法でやってみるといことですね。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

そうですね。3回ありますので、可能なところは取り入れながらやっていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(金部会長)

わかりました。はい。上野委員、お願ひします。

(上野委員)

去年の開催結果概要を見させて頂いて、この中でインターネットでの意見、またアンケート等での意見についても記載があるんですが、これは去年の開催校だけを対象としたアンケートということでしょうか。

(事務局・政策創造部 総合政策課)

紙媒体のアンケートは全校を対象に実施しておりまして、対話集会で直接頂いた意見とアンケートで広く頂いた意見の両方を総合計画の策定に反映させております。実際の雰囲気等を踏まえた生の声を聞くことも大事であろうという部会からのご意見を頂きまして、こういった手法を取らせて頂いたところです。

(金部会長)

その他、よろしいでしょうか。この会議は1時間の会議時間を予定しておきまして、そろそろ時間になってまいりました。それでは他にご質問等がないようでしたら、これで終了したいと思います。

最後に事務局から何か連絡事項等ありますでしょうか。

<事務局説明>

本日の会議録は、事務局で取りまとめた上、ご発言頂いた各委員の皆様はその内容をご確認頂きお名前も入れて公開したい。

(以上)